

科目名	実習ゼミⅡ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科4年	前期	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

話しことばの3要素である「音声」「構音」「パターン」のうち、構音の障害は最も中核をなす障害要素である。言語聴覚士の仕事の大半は構音の指導であるとも言える。講義は構音指導事例を中心にその障害音の識別、発生メカニズム的ならまえから、指導の方策を立て実行していく手順を演習的に修得する。

〔授業全体の内容の概要〕

構音障害の種類とその内容、検査法および治療の理念とその方法について学ぶ。

〔講師の実務経験〕

石橋内科広畑センチュリー病院、神戸掖済会病院、ツカザキ病院にて言語聴覚士として16年間勤務

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

構音障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等を実施するための応用力を習得する。

回数	講義内容
1	障害児構音の聞き取り
2	語音の構音法、構音点、構音者の視点からの分析①
3	構音者の視点からの分析②
4	構音に関わる諸要因を知る
5	構音検査法とその演習
6	構音指導の方法①
7	構音指導の方法②
8	事例研究 構音指導の実際を知る①
9	事例研究 構音指導の実際を知る②
10	事例研究 構音指導の実際を知る③
11	構音指導教材の工夫と活用方法例を知る①
12	構音指導教材の工夫と活用方法例を知る②
13	構音指導の総まとめ①
14	構音指導の総まとめ②
15	構音指導の総まとめ③

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説 2018年版		大揚社

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

筆記試験にて評価する。